京都大学人文科学研究所共同研究 最終報告書

１．研究課題

20 世紀中国史の資料的復元

Reviving the History of Twentieth-Century China by Reviewing the Source Materials

２．研究代表者氏名

石川　禎浩

ISHIKAWA, Yoshihiro

３．研究期間

2019 年 4 月-2024 年 3 月(5 年目)

４．研究目的

中国における近現代史の叙述は、領域によって程度の差はあるものの、イデオロギー型革命政党によって統制され、方向付けられてきた。かれらは党派ごとに自己中心的、あるいは独善的解釈による歴史像を持つだけでなく、そうした歴史像を支えるべく、歴史資料の収集やその編纂、刊行にも力を入れてきた。ただし、そのさいに資料はしばしばその歴史像に符合するよう編纂（改竄を含む）されてきたため、政治史にせよ、思想史にせよ、あるいは文学史にせよ、既存の公刊史料に基づく限り、研究者はどうしてもその枠組みから脱却できないという隘路に行き着いてしまう。それゆえ、近代の中国がどのようなものであったのかを知るためには、まず基本的な史料を編纂状態以前にもどすという気の遠くなる作業から始めなければならない。本研究班は、20 世紀の中国の政治、運動、文学、芸術といった領域で、それぞれ根本資料と見なされてきた基本文献に関して、その生成や編纂、刊行の経過を洗い直したうえで本来の姿にもどし、それによって中国 20 世紀史全般を復元し、再構築することを目指す。

The history of 20th century China, whether good or bad, has been written under the dictates of the political parties which have an ideological mindset of the revolutionary. They not only had their own self-centered narratives of the modern history, but also collected and compiled historical materials concerned to reinforce their narratives. The problem is, however, that they often made the falsifications when they edited those source materials into the official documents. Because of this, we should understand how their narratives were formed along with the compilation of the historical materials in the century. In this research seminar, we shall investigate and restore various source documents which has been considered to be the basic materials in each area of modern China, such as politics, revolutionary movement, literature, art and so on. This type of research, which makes full use of original sources

scattered around the world to revive the primary documents of twentieth-century China, would open the way for us to have a refreshing understanding of how the modern Chinese history really was.

５．研究成果の概要

当初 3 年計画だった本研究班は、途中新型コロナのパンデミックに伴う対面開催の自粛やオンライン開催といった要因が相次いだため、研究課題に向けた問題意識がなかなか集約されず、意思の浸透と交換に課題を残した。一年ずつ 2 回延長したのは、そのせいである。ただし、5 年間で通算 80 回を越える例会を開催し、そのたびにレジュメの事前配布、専門領域の近いコメンテーターによる質の高いコメントの実施というさまざまな工夫が施された結果、四年目、五年目には予想を超える高水準の報告があいつぎ、満足のいく会議形態となった。

成果報告としては冊子体の論文集を刊行する予定で、2023 年 12 月をめどに原稿執筆の意思確認を行い、9 月末までに、17 本の報告論文を得た。9 月以降は一方で従来の例会による報告と討議を重ねる一方、集まった論文の査読、編集作業を並行して進め、12 月に印刷所に入稿、2 月末に版下の作成が終わり、来年度早い時期の刊行に向け、校正をおこなっている。

６．共同研究会に関連した主な公表実績

2020 年 10 月 31 日　シンポジウム「中国学研究と翻訳」を開催

2022 年 9 月　人文研アカデミー2022『近現代中国研究の最前線：現代中国研究センター設立 15 周年 連続セミナー』として、研究班のメンバー4 人が 4 週にわたって報告

2023 年 3 月 5 日　「中共百年史書評会」を開催　石川禎浩『中国共産党、その百年』、高橋伸夫『中国共産党の歴史』について、楊奎松、谷川真一、丸川知雄の三氏が公開で書評

７．研究成果公表計画および今後の展開等

拠点の研究成果刊行助成（出版助成　80 万円）を申請し、これが認められたため、この助成金と現代中国研究センター（石川）の運営費、および石川が研究代表を務める科学研究費補助金（基盤Ｂ）などの資金を投入して、研究報告論文集「20 世紀中国史の資料的復元」の刊行にむけ、版下を作成した。令和 6 年度はこの版下を用いて、印刷に入り、6-7 月あたりにクロス貼りの論文集を刊行し、関係各方面に配布のうえで関連研究会を開催する予定である。